

オンライン学習で成功するためのレディネス：オンライン学習者のリテラシーとは？

オーガナイザ：合田美子（熊本大学, *ibstpi*）、松葉龍一（熊本大学）

高等教育における e ラーニング、オンライン大学や大学院、MOOCs や OCW などオープン教育リソースの提供により、オンラインで学習できる機会は増加している。ICT を活用した学習の利点として時空間の制限がなく自分の好きな時に自分のペースで学習ができる。システムに蓄積される学習ログから、学習者の学習プロセス、学習状況を把握することができ、学習者は学習提供側から適切なフィードバックや支援を受ける。しかし、学習状況が可視化できたことで、問題も明らかになってきた。例えば、締切間際に駆け込んでまとめて行う学習、オープンリソースでの学習の高いドロップアウト率、オンライン掲示板におけるディスカッションへの不参加などが挙げられる。人が情報通信技術を通して学ぶとき、効果・効率・魅力を考えしっかりデザインされた良質なオンライン教材が提供され、それらを享受するリテラシーを身につけた学習者の両方が必要であると考える。国際教育研究団体である *ibstpi* (International Board of Standards for Training, Performance, and Instruction) では、2012 年にオンライン学習者コンピテンシーを策定している。

本パネルディスカッションでは、オンライン大学、オンライン大学院、MOOCs の事例を通し、どのような学習者がオンライン学習で成功し、どのような学習者がどのような時につまずくのか整理したい。*ibstpi* のオンライン学習者コンピテンシー、自己調整学習など、学習者の特性や特徴をまとめたモデルや理論をベースに、オンラインでの学びに必要なこと（リテラシー、コンピテンシー、学習支援など）を分析し、議論する。最後に、AI、VR、IoT、ロボットなど新たなラーニングテクノロジーの導入によりもたらされる学習方法などを考慮したリテラシーについても意見交換する。

登壇者および発表内容：

- ・久保田真一郎（熊本大学）「LMS ログデータによる通学制学部学生の学習行動分析」
- ・平岡斉士（熊本大学）「社会人大学院生の学習の特徴」
- ・石毛弓（大手前大学）「通信制大学におけるスタディスキルズ」
- ・長沼将一（東京通信大学）「オンライン大学開設のための学習者分析」
- ・八木秀文（東北大学）「MOOCs の学習者像」
- ・合田美子（熊本大学）「*ibstpi* オンラインラーナーコンピテンシーと自己調整学習スキル」